

茨城県图画工作・美術教育研究部研究調査委員会 実践研究報告書（令和元年8月）

研究テーマ	自分の表現意図に合わせて、創造的な構成を工夫していくための授業展開の在り方 —第3学年「自画像～15歳の今～」の実践の通して
-------	---

阿見町立朝日中学校 教諭

## I 研究テーマについて

事前のアンケートで「アイデアを練るなど発想する活動」を嫌い・苦手と答えた生徒は16%と一番少ない結果であったが、本題材に関して実際に背景の構想を練ることができていると答えた生徒は全体の31%と多くはない。それと同時に、内面の自分を背景で表現するにあたって使えると思う要素に関しては、一学年で重点的に学習した「色の感情効果」は69%と高い数値を示していたが、構図の工夫、技法の工夫、画材の工夫などは全て20%以下に留まる結果となった。つまり、発想する活動自体に苦手意識がある生徒は多くはないが、全体としては、実際に自分の感情やイメージした世界などを表現していくために、必要な画材や用具の扱いなどを工夫して選択し、組み合わせたり、結び付けたりする力が不足している生徒が多いことが分かった。そこで、本題材では、背景の発想の時間に重点を置き、なかなか表現しづらい「内面の自分」というテーマを基に、国語科との連携を図り、言葉での発想の時間を確保する。また、イメージと表現を結びつけていくことが困難な生徒の為に、ミニ鑑賞の時間、発想の練習の時間を取り入れテストピースを制作し、自分の作品に活かしていく手立てとし、自分の表現意図に合わせて、創造的な構成を工夫していくための授業展開について学習指導上の改善を図った。

## II 研究の実際

### 1 題材名 自画像～15歳の今～

### 2 題材の目標

- 自己の内面を表現する活動に関心をもち、意欲的に表現しようとする。  
(美術への関心・意欲・態度)
- 生み出した主題と画材や技法などを組み合わせて、創造的な背景の構想を練ることができる。  
(発想や構想の能力)
- 自分の表現意図に合わせて、新たな表現方法を工夫して表現することができる。(創造的な技能)
- 自他の作品を鑑賞し、よさを味わいながら表現の工夫を感じとることができる。  
(鑑賞の能力)

### 3 題材について

#### (1) 生徒の実態

本学級の生徒は、美術の授業に高い関心をもっており、事前のアンケートでは、「美術の授業に積極的に取り組んでいる」「どちらかというと積極的に取り組んでいる」と答えた生徒は合計で88%だった。また、授業の全活動の中で「アイデアを練るなど発想する活動」を嫌い・苦手と答えた生徒は16%と他の活動に比べると低い結果であったが、本題材に関して自発的に背景の構想を練ることができていると答えた生徒は全体の31%と多くはなかった。

背景の「内面の自分」を表現するために、使えそうな要素はどれですか？

色の感情効果	モチーフの工夫	構図の工夫	技法の工夫	画材の工夫	その他
69%	25%	1.9%	13%	6%	6%

また、上の表にあるように、内面の自分を背景で表現するにあたって使えると思う要素に関しては、一学年で重点的に学習した「色の感情効果」は69%と高い数値を示していたが、構図の工夫、技法の工夫、画材の工夫などは20%以下に留まる結果となった。つまり、発想する活動自体に苦手意識がある生徒は少なく、表現したい思いがある生徒はたくさんいるが、その感情やイメージを自分の主題として明確に捉え、適した画材や用具の扱いなどを工夫することで、自分なりの表現に結び付けていく力が不足している生徒が多いということが分かった。

## (2) 題材観

中学校学習指導要領における第2学年及び第3学年の指導目標に「対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす」とある。自画像の制作とは自分自身を知ることであり、自己の投影の形である。これによって、ただ単純に表面的な自分の姿形を捉えるのではなく、自分自身の今の気持ちや心の奥底を見つめていくことで、より深い自己理解にもつながり、隠っていた感情や、大切に思うものの存在に気づくことができると考える。中学3年生という時期は、最も多感な時期であり、様々な困難を乗り越え、将来の姿を想像しながら、自分自身を見つめていく時期でもある。また、それと同時に思春期でもあるこの時期、人前で鏡を見ること自体に抵抗のある生徒も多い。そこで、本題材では、人物の部分は鏡を見て描くのではなく、白黒で印刷した写真の明暗を見極め、転写した線をアクリルガッシュで塗り分けて表現することで、鏡を見ることに対する抵抗感を軽減する。また、モチーフを見ながら形を正確に取ることに抵抗のある生徒も、この方法でなら本人にそっくりに描くことができ、完成時の達成感も大きく、意欲を低下させることなく作品制作に取り組み続けられることが期待される。写真撮影の段階から作品制作がスタートし、3年間頑張り通した部活のユニフォームを着てポーズを決めたり、好きな本や楽器など自分が大切に思うアイテムを取り入れたりすることで愛着をもって表現することができる。さらに、背景には自分の内面にあるものを描く。自分自身をしっかりと見つめ、将来の夢や3年間の思い出、自分を作り上げる大切な物、感情などから主題を生み出し、自分の意図に合わせた新たな表現方法を工夫させたい。

## (3) 指導観

生徒の実態を踏まえて、本題材では、生徒たちが内発的に主題を見つけられるようにするために、まず国語科との連携を図り、言葉での発想の時間を確保する。自分の置かれている状況や感情を「内面の自分」をテーマとした「無季自由律」の句で表すことで、季語や定型に縛られないありのままの自分の言葉が生まれ、自らの主題を見つけやすくするヒントになるのではと考える。また、イメージと表現を結びつけていくことが困難な生徒の為に、ミニ鑑賞の時間、発想の練習の時間を取り入れ、ワークシートの記入やテストピースの制作をステップとして、自分の作品に生かしていく手立てとする。既習事項を取り入れながら、独自の表現方法を探っていく中で、深みのある表現に繋がっていくことを期待する。義務教育9年間の集大成とも言える大作となるよう支援していきたい。

## 4 題材の評価規準

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	<p><b>表現</b> 「15歳の今を見つめる」というテーマを基に、自己の内面を見つめて表現することに関心をもち、主体的に心豊かな表現の構想を練り、材料や用具の特性を生かした表現をしようとしている。</p> <p><b>鑑賞</b> 自他の作品のよさを見つけることに関心をもち、主体的に見方や理解を深めようとしている。</p>	<p>・「15歳の今を見つめる」というテーマを基に、感性や想像力を働かせて、自己の内面を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像、感情などの心の世界を基に主題を生み出し、単純化や強調、画材や技法の組み合わせなどを考え、創造的な表現の構想を練っている。</p>	<p>・感性や造形感覚などを働かせて、アクリルガッシュや用具などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどし、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現している。</p>	<p>・感性や想像力を働かせて、作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、見方を深めながら味わっている。</p>

## 5 指導と評価の計画（18時間扱い）

次	時	学習のねらい・学習活動	評価の観点				観点別評価規準 < >は評価方法
			関	発	創	鑑	
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の表現意図に合う服裝やポーズ、構図を工夫して自分自身を表現していくことを理解し、題材への関心を高める。</li> <li>・表現意図に合わせて写真を撮る。</li> </ul>	◎				<ul style="list-style-type: none"> <li>・「15歳の今を見つめる」というテーマを基に、自己の内面を見つめて表現することに关心をもち、表現意図に合わせて写真を撮影しようとする。 &lt;写真&gt;</li> </ul>
2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●画材、表現方法の特性を理解し、制作の順序を総合的に考えて、見通しをもって表現する。</li> <li>・色彩のもたらす感情をとらえ、その効果を活用して彩色する人物の色を構想し、制作の順序をよく考えながら見通しをもって表現している。</li> </ul>	◎	◎			<ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩のもたらす感情をとらえ、その効果を活用して彩色する人物の色を構想し、制作の順序をよく考えながら見通しをもって表現している。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(「明度のりんご」テスト・作品)</p>
3	3 4 5 6 7 8 9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己の内面を見つめ、表現する主題を生み出し、それを基に構想を練る。</li> <li>・自己の内面を深く見つめ、発想を広げるために国語で制作した無季自由律の句や、ワークシートなどにより主題を考え、構想をまとめてアイデアスケッチを制作する。</li> </ul>	◎				<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の内面を深く見つめ感じたこと、考えたこと、夢、想像、感情などの心の世界を基に主題を生み出し、単純化や強調、画材や技法の組み合わせなどを考え、創造的な表現の構想を練っている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(アイデアスケッチ・ワークシート)</p>
	12 13 14 15 16 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>●構想を基に表現意図に合う表現方法を工夫する。</li> <li>・色、模様、モチーフ、構図、画材、モダンテクニックなど、構想を実現するための技法や用具を工夫して制作を行う。</li> </ul>		◎			<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や造形感覚などを働かせて、アクリルガッシュや用具などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫して表現している。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(作品)</p>
4	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お互いの作品を鑑賞し、批評し合うことにより、表現の工夫を感じ取る。</li> <li>・ワークシートに、自分の作品についての説明を記述する。</li> <li>・作者の心情、意図、表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。</li> </ul>			◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や想像力を働かせて、作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、見方を深めながら味わっている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(鑑賞シート・発表内容)</p>

## 6 指導の実際

### (1) 目標

自分の生み出した主題を基に、画材や技法を組み合わせてテストピースを作り、表現の構想を練ることができる。  
(発想・構想の能力)

### (2) 資料・準備物

ワークシート、電子黒板、参考資料、アクリルガッシュ、モデリングペースト、へら

(3) 展開 (18 時間扱いの 10 時間目)

	学習内容及び活動	形態	指導上の留意点 ◎評価 ○教師の支援・留意点 ●個への対応
教える	<p>1 ミニ鑑賞を行う。</p> <p>(1) 電子黒板、資料で示された作品について感じることをグループ内で話し合い、発表する。</p> <p>(2) 全体で共有する</p> <p>2 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           自分の感情や思いを目に見える形で表現するために、適した要素の組み合わせを探してみよう。         </div> <p>3 背景のデザインを構想する。</p> <p>(1) 簡単な例題にチャレンジする。</p> <p>(2) 無季自由律の作品を基に、自分の感情や思いを表す要素をワークシートに書きだし、主題を設定する。</p> <p>(3) 主題を表現するために必要な要素を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具象・比喩表現タイプ</li> <li>・抽象表現タイプ</li> <li>・混合タイプ</li> </ul> <p>(4) テストピースを作る。</p> <p>(5) テストピースをワークシートに貼り付け、選んだ要素や途中で変更した要素などを書き込む。</p>	<p>一斉 グループ 一斉</p> <p>個別</p>	<p>○自由に作品を見られるように、テストピース、参考資料を予め掲示しておく。</p> <p>○正解は一つではなく、様々な捉え方があることを伝えるなど、グループ内で自由に発言できる雰囲気を作る。</p> <p>○作品の色だけではなく、筆のタッチや画材の違いなどから生まれる効果についても目を向けさせ、絵画表現の様々な可能性について気付けるようにする。</p> <p>○課題の確認と用具の使用に関する注意点を説明する。</p> <p>④自己の内面を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像、感情などの心の世界を基に主題を生み出し、単純化や強調、画材や技法の組み合わせなどを考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p style="text-align: right;">(ワークシート・テストピース)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>&lt;評価&gt;</b> <p>(A) 自分の生み出した主題を基に、要素を3つ以上組み合わせてテストピースをつくっている。</p> <p>(B) 自分の生み出した主題を基に、要素を2つ以上組み合わせてテストピースをつくっている。</p> <p style="text-align: right;">(発言分析・テストピース)</p> </div> <p>●自分の感情や思いと表現技法が結びつかない生徒には、具体的な作品例などを示し、自分のイメージに近いものを選択できるようにする。</p> <p>●テストピースが早く作れてしまった生徒には、背景の色や模様など他の要素と組み合わせることでさらに違った効果が生まれないか考えられるように助言する。</p> <p>●具象にこだわり過ぎて、描き終らなさそうな生徒には、リアルに細かく描くだけが表現ではなく、伝えたいイメージに応じて簡略化や強調化を行ってもよいということを助言する。</p> <p>○振り返りシートの活用を通して、目標の実現状況を自ら評価し、次時の活動へ見通しをもって臨めるようにする。</p>
活用させる	4 本時のまとめをする。	一斉	
振り返る	<p>(1) 次時の予告を聞く。</p> <p>(2) 片付けを行う。</p>		

### III 研究の成果と課題

#### 1 手立ての分析

##### (1) 国語科との連携について

国語の授業内で今回の「無季自由律」の作品が美術の自画像に関わってくることを説明してもらった。季語や定型に縛られないありのままの自分の言葉で作品を作ることができ、自分の感情を表出する手立てとしては非常に有効であったと思う。また、美術の授業では、この俳句作品が手元にある状態からの自分の感情を読み解く活動になったので、15歳の今の自分を客観的に見ることができ、スムーズにワークシートを埋められる生徒が多かった。

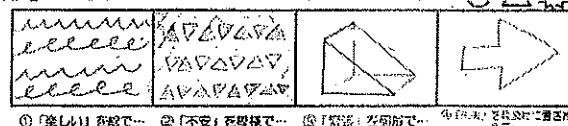
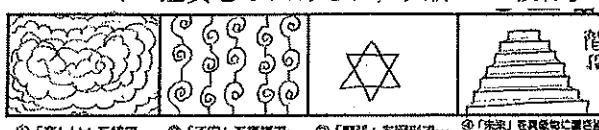
	国語で制作した「無季自由律」の作品	俳句作品から読み取れる自分の感情や想い ⇒「主題」
作品①	誰も教えてくれない人生の模範解答	正しく生きたい
	先が見えなくても歩く自分	不安・希望・悩み・未来が気になる
	限界から成長	集中すればするほど楽しい
	今はじけよう 自分	不安という壁をこえる
	やり直したい人生 でもやり直せないのが人生	過去を振り返っていてもしょうがない 前へ進めー！！って感じ
作品②	Hey Siri・本当の自分を教えて	不安な感じだけれど、前向きに探してる感じ
作品③	嘘ついてもあなたは見破る心の傷	粘土メンタルを唯一見つけてくれる人がいる
	動くな 時間	今が楽しいから卒業したくない
作品④	人に操られてばかりの自分 自分らしさを見つけたい	不安
作品⑤	反抗期 自分の心あれている	将来のことが不安でどうしたらいいかわからなくなっている
作品⑥	鏡を見ても外側しか見えぬ	分からない

##### (2) ミニ鑑賞の時間について

ゴッホの「自画像（1889）」を始めとするいくつかの自画像作品を鑑賞した。人物自体の描き方だけではなく、今回は背景の表現に着目させ、そこから描かれている人物像を想像する活動を行った。色だけではなく、筆のタッチや模様などを組み合わせることで、より感情や想いを表現しやすくなることに気付けた。

##### (3) 発想の練習について

ミニ鑑賞をしたあとに、実際に「模様」や「形」を使ってテーマを表現する練習を行った。



プリントを電子黒板で投影し、全体での共有を行うことで、様々な表現の仕方や誰もが共通して感じる表現方法などに気付くことができ、次で制作するテストピースで実際に取り入れている生徒も多かった。

##### (4) テストピースの制作について

色と前時に確認したモダンテクニックの技法、モデリングペーストなどの画材を組み合わせて自分で定めた主題を表現する活動を行った。色を重ねたり、技法を組み合わせたりしていくことでより自分の表現したい主題のイメージに近づけるよう試行錯誤する姿がみられた。中には割り箸をカットしたパーツや自分で着色した綿を張り付けて表現しようとする生徒も見られ



作品①



作品②

作品③

れ、今までの絵画表現の枠を越えて、やってみたいことを試せる時間になった。新しい表現を探り、創造的な構成を考えるきっかけとなった。

## 2 本時の評価について

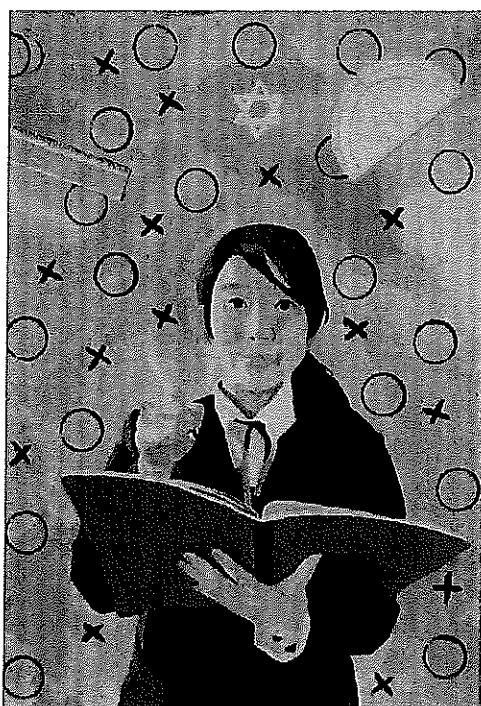
評価	「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C）
ス テ スト ピー	 作品④	 作品⑤	 作品⑥
要 素	寒色×模様×スタンピング	ダークトーン×波線×ぐるぐる	青×不安
評価の根拠	主題の「不安」な気持ちをペットボトルキャップのスタンピング、繰り返しの模様、そして明度に差をつけた寒色の三つの要素を効果的に組み合わせて表現できている。	主題の「不安でどうしたらいいかわからない心」をダークトーンを使い、さらに波線と模様で感情を表している。絵筆だけでの表現になってしまっているので、更なる要素との組み合わせを期待したい。	主題の「分からない自分の気持ち」を青の絵の具を使うことで表現しようとしている。技法を試すだけで終わってしまっている。

## 3 成果

昨年度までは背景を一色で均一に塗るだけで終わってしまう生徒が多数みられたが、今回は「にじみたらしこみ」や「デカルコマニー」を使って複雑な感情の表現にチャレンジしたり、モデリングペーストでより表現を強調して表そうとしたりする生徒が格段に多くなった。主題となる部分を言葉に表す活動を充実させることで、自らの表現意図が明確になり、さらにスマールステップで発想を広げていくことで、自分の感情や想いと絵画的要素を発想豊かに関連付けられる生徒が増えることが分かった。以上のことより、この実践は創造的な構成を工夫していくのに有効な手段であったと考える。

## 4 今後の課題

テストピースは作れても、本番の紙への制作に入ったときに、途中で「主題」を見失ってしまう生徒が少なくないので、折に触れて主題を振り返り、より明確に表現を追求していくようにしていきたい。



完成作品